

平成26年度

# 社会教育 アドバイザー通信

〈第3号〉



黄金色の稲穂が輝く秋。秋田は、一年で最も豊かな季節を迎えました。同時に、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋…など、魅力的な『実りの秋』への期待が広がります。

さて、中央教育事務所では「社会教育の重点」として、「学びを生かす学校・家庭・地域の連携・協力の充実」を掲げ、その施策の一つに、「子ども読書活動推進計画に基づき、公立図書館、学校図書館、読書活動団体の連携を推進し、読書活動の充実を図る」と明示しています。各市町村の公立図書館や公民館図書室では、読書活動の充実に向けて、それぞれの地域の特色を生かして取り組んでいます。その中から本号では、ユニークな読み聞かせ活動をしている由利本荘市の実践をご紹介します。

平成26年9月22日  
発行：秋田県教育委員会  
編集：中央教育事務所



## ★中央図書館：「ヨミキカセ ワールドワイド」外国語の読み聞かせ活動★

(毎月1回：第4土曜日)

- 参観したこの日は、「韓国語」での読み聞かせでした。就学前の幼児や小学生が参加し、家族も子どもと一緒に読み聞かせを楽しんでいる光景がとても温かく映りました。秋田県立大学の学生や地域のボランティアの協力を得て、年間で8カ国語のメニューで実践しています。
- 2009年に、読み聞かせボランティア「国境なき語り手」(代表：古川千夏さん)が発足し、他国を理解するきっかけにしてほしいという願いをもって、外国語による読み聞かせに取り組んでいます。
- 由利本荘市の予算面での補助、施設設備面で恵まれた環境(明るい室内、バリアフリー完備等)、地域ボランティアの協力があることなどが、古川さんたちの活動意欲を支えています。



【韓国語による読み聞かせ活動風景】  
『こいぬのうんち』(クォン ジョンセン:作)

## ★出羽伝承館：「おはなしのへや」★

(毎月1回：第4土曜日)

【子どもたちが自由にパソコンを操作して本の検索ができるシステム】



- 地域の資料館である出羽伝承館は、図書館としての機能を併せもっています。読書を目的とした来館者が、同時に郷土の文化や歴史にも触れることができる魅力的な施設です。
- 読み聞かせ教室は、地域のボランティアグループ「すずめの巣」のメンバーによって継続されてきました。12年前(平成14年度)に結成された「すずめの巣」は、現在10名のメンバーです。出羽伝承館を拠点にして、地域の小学校(3校)や病院・介護施設へも定期的に出向いて活躍しています。

上記の取組を支えているのは、活動場所となる公立図書館等で環境整備を担う図書館職員の存在でした。司書の資格を有し、専門的な知識と技術を生かしてボランティア活動をサポートしていました。魅力ある図書館づくりと読み聞かせ活動が、来館者の読書意欲を大いに高めています。

平成26年度の県による学校・家庭・地域連携総合推進事業の一環として、中央教育事務所では年間5回の研修会を実施しています。各市町村の事業関係者が、情報を共有して交流するとともに、テーマに添った話し合いや演習を通して研修を深めました。

**< 第1回中央地区学校支援担当者研修会 >** 平成26年5月29日(木) 会場：秋田県生涯学習センター

**<趣旨>**  
 「地域ぐるみで子どもを育む教育支援活動の一層の充実を図るため、中央地区における学校・家庭・地域連携の課題について研究協議を行い、中央地区の地域の教育力向上に資する。」

中央地区9つの市町村教育委員会から、代表の担当者が参加しました。実践を紹介しながら課題を洗い出すワークショップ形式の協議では、取組の現状を見直す機会になりました。

また、他管内の情報提供者として仙北市角館中川学校支援コーディネーターの黒澤福子氏が講話してくださいました。

「強力な学校支援」こそが、地域の活性化につながる。地域が変われば学校が変わる。子どもが変わる。

という力強い提言が心に残りました。

○他市町村の連携の在り方から学ぶとともに、研修の成果を地域の力につなげていこうとする参加者の意識を高めることができました。



【実践を項目ごとに分類作業】



【グループで仕上げた実践図】



**< 第1回 中央地区指導者等研修会 >** 平成26年7月8日(火) 会場：秋田県生涯学習センター

対象事業（○放課後子ども教室推進事業 ○放課後児童健全育成事業 ○わくわく土曜教室推進事業）の関係者及び市町村行政関係職員、計71名の意欲的な参加を得て実施しました。



開会行事では、中央教育事務所 廣嶋 徹 所長から、「本日のテーマは、昨年度の研修会後のアンケートを受けて希望の多かった内容を含んでいる。日頃の悩みの解決につながる意義ある研修になるだろう。いかなる場合も迅速な判断をして、子どもたちに適切な対処ができるよう生かして欲しい。」という励ましの言葉がありました。

※事後のアンケートから参加者の「声」

- ☆ 分かりやすい資料と丁寧な説明であった。これまでの間違った処置に気付いた。
- ☆ 今日の研修で得た知識を活用して、一人勤務の時でも自信をもって応急手当ができる。
- ☆ いつも資料を手元に置いて、活用したい。
- ☆ 職場に戻ったら他のスタッフにも伝達して情報を共有し、実行したいと思う。

**< 講義・演習のテーマ >**  
 学童期の子どもの病気や怪我への対応  
 講師：市立秋田総合病院  
 救急看護認定看護師 山本 尚樹 氏



【幼児模型を使った演習】

○身近に起こりうる「不慮の事故」の予防の大切さと対処法を学び、子どもの安全という視点から各施設で実施している活動プログラムを見つめ直す貴重な機会になりました。「何度でも受講したい内容だった」という参加者の声が、何よりの成果と言えます。今回の研修は、各施設の「緊急時対応マニュアル」の見直しにも活用されました。